

おおてみち

第129号

令和6年(2024年)10月1日
滋賀県立安土城考古博物館

9月3日(火)から 常設展開催

令和7年3月にリニューアルオープン



木偶 大中の湖南遺跡(当館蔵)
湯ノ部遺跡・烏丸崎遺跡(滋賀県蔵)



供養塚古墳出土人物埴輪・家形埴輪・馬形埴輪(当館蔵)



山津照神社古墳出土五鈴鏡(山津照神社蔵)



安土城跡出土金箔瓦(滋賀県蔵)



安土城跡の発掘調査



観音寺城地形模型



安土城地形模型



信長の肖像と石垣レプリカ

近江風土記の丘
滋賀県立安土城考古博物館
Shiga Prefectural Azuchi Castle Archaeological Museum

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦6678
Tel.0748-46-2424 Fax.0748-46-6140
e-mail gakugei@azuchi-museum.or.jp
URL <https://www.azuchi-museum.or.jp>



考古展示(常設展)

会期 令和6年9月3日(火)～

令和7年3月30日(日)

当館の常設展示室のうち、弥生時代・古墳時代をテーマとした第一常設展示室が、五月二十六日を以て、終了となりました。考古資料については、今回おこなう「考古展示」のように、企画展示室などで機会を見て公開していく予定です。

考古展示がテーマとする「近江風土記の丘」の史跡は、弥生時代の農耕集落である大中の湖南遺跡と、古墳時代前期の前方後円墳で、県内最大(全長一三六m)を誇る瓢箪山古墳です。

大中の湖南遺跡からは、稲作に使われた木製の農耕具が大量に出土しました。完成品に加え、製作工程の各段階のものも出土していることが注目されます。弥生時代の展示としては、一箇所からの出土数が全国二位となる、野洲市の大岩山出土銅鐸十口(複製品)の展示が壮観です。また、琵琶湖の湖底遺跡の発掘調査の様子や、滋賀県内各地の遺跡から出土した縄文時代の土偶、弥生時代の土器なども展示します。

瓢箪山古墳の方では、竪穴式石室から出土した銅鏡、玉類、石製品などの呪術的色彩の濃い宝器類、武器・武具類を展示します。さらに、栗東市新開古墳出土甲冑類や、高島市の鴨稻荷山古墳の副葬品(復元品)などを、人形にまとわせ、古墳時代前期・中期・後期のそれぞれの王様の姿を比較した展示もおこないます。

(大道和人)

特別陳列Ⅰ

近江の遺跡発掘調査①

「古代国家と鉄」

「近江国府跡青江遺跡の鍛冶工房」

会期：令和6年9月26日(木)～10月31日(木)

本展示で紹介する青江遺跡は、近江国府の中心的施設である近江国庁の南側に位置し、これまで国司館と想定される掘立柱建物やそれに伴う築地塀が検出されていることが知られていました。

大津市が実施した令和四年度(二〇二二)の発掘調査では、築地塀とそれに伴う礎石列によって構成される「片庇廊」と呼ばれる外郭施設が検出され、その中から複数基の鍛冶炉や鍛冶関連遺物が確認されました。

このような発掘調査成果は、これまで近江国府内では得られておらず、また遺構の時期が、藤原仲麻呂が近江国守を兼任していた時期と合うことから、近江国府の構造や、藤原仲麻呂政権と近江の鉄・鉄器生産との関係を知るうえで非常に重要な成果であると言えます。

(大道和人)



鍛冶関連遺物 (大津市蔵)



片庇廊 (大津市提供)

特別陳列Ⅱ

近江の遺跡発掘調査②

「古代のお金―無文銀銭から札元大寶まで―」

会期：令和6年11月1日(金)～12月3日(火)

令和六年七月三日から新しい一万円札・五千円札・千円札が発行されました。平成一六年の変更から約二十年ぶりの更新になります。新札発行の理由には、偽造防止やユニバーサルデザインの向上があるようです。

お金の種類や定義は様々で一様に説明できるわけではありません。ただしその中でも金属で造られた「銭貨」に絞るのであれば、日本で製作された初例は飛鳥時代の無文銀銭になります。その後、和同開珎からいわゆる「皇朝十二銭」と呼ばれる銭貨が順次、製造されます。古代の銭貨も現代と同じく、更新されるたびに書かれた文言や製造方法、規格等が変化しましたし、いろんな用途で消費されました。

本陳列ではこのような日本古代における銭貨の歴史の一部を、滋賀県内における発掘調査で出土した事例から紹介したいと思います。

なお、十二月四日(水)

からは、特別陳列Ⅲ 近江の遺跡発掘調査③「中世のお金―虫生館遺跡出土事例から―」を開催予定です。こちらも併せてご覧ください。

(佐藤佑樹)



尼子西遺跡出土無文銀銭 (滋賀県蔵)

資料紹介

柴田勝家裁許条々―中津井文書―一通

天正三年（一五七五）六月二十六日

川上区自治会・弓削自治会・川守区・

綾戸自治会・駕輿丁自治会 蔵

中世近江には、村人たちが自治を行う「惣村」が少なからずあり、そこでは共有田畠の証文や村の掟などの共有文書が守り伝えられてきました。当館でも、蒲生郡竜王町の左右神社文書や須恵八幡神社文書などを預かり、展示をしています。

しかし、共有文書を持つのは個々の村だけではありません。複数の村で構成された井郷（井水組合）などでも、その権利の根拠となる文書が、大切にされてきました。竜王町の「中津井」は、川上・弓削・川守・綾戸・駕輿丁・橋本・信濃の七村を潤す農業用水の組合で、十六世紀初頃から存在し、近隣の井郷と争論を繰り返していました。

この中津井の共有文書百三十三点（町指定文化財）が、今年四月一日より、新たに当館に寄託されることになりました。

写真の柴田勝家裁許条々は、その中の一通です。

元亀元年（一五七〇）、近江支配の強化をはかる織田信長は、江南の各郡に有力な部将を配し、民政・軍事両面で全面的な支配権を与えました。蒲生郡を最終的に任されたのは、長光寺城（近江八幡市）の勝家でした。勝家は、信長の父の代からの家臣で、年齢的にも武功においても、家中で一目置かれる

宿老でした。

この文書は、中津井と、隣の井郷で井の取水口を共有している宮井（岩井・田中と川守・綾戸の一部）との水争いに際して、領主の勝家が下した判決文です。中津井と宮井は、日野川と綺田川の合流地点の川下に用水の取水口を設けていたのですが、井関を宮井郷に押さえられていた中津井郷が、旱水で水量が減ったことに困り、こちらにも水を流すよう訴えました。このあたりは川面が地面より高い天井川で、伏流水を得るためにどこまで川底を掘ってよいかが焦点となっており、勝家は中津井にも一定量の水を通すよう、宮井郷に指示しました。二ヶ月後に中津井郷の井掘範囲を定めた勝家の書下も、同様に伝わっています。

中津井文書の寄託披露のため、十一月一日（金）から年末まで、この二通の勝家文書と勝家画像の復元模写を、第二常設展示室で展示を行います。

蒲生郡を支配した頃の勝家文書は、あまり地元に残っていません。肖像画とともに、この機会にぜひとも観覧頂きたく思います。（高木叙子）



令和6年度安土城跡発掘調査開始!!

昨年度から、安土城の実像解明のための「令和の大調査」が始まりました。発掘調査は天主台周辺から開始し、今年度は天主台東面から北東面本丸取付台にかけての発掘調査を八月一日から行っています。

昨年度は、本丸取付台で建物礎石を検出し、建物の規模を想定する手がかりを得ました。また、天主台では、石垣の崩落状況を明らかにし、天主台が人為的に破壊された「破城」の可能性を想定するに至りました。

今年度は、昨年度調査区に隣接して発掘調査を行い、謎に包まれた安土城のさらなる実像解明を目指します。本丸取付台では、昨年度に検出した建物礎石の続きを検出することで、建物の規模や構造を追求することを、天主台では、石垣の北北東の隅角部を検出し、天主台の形状復元の資料を得ることと、石垣の崩落状況の詳細や、その原因を追求することを目的にしています。

調査成果については、現地説明会や調査成果報告会でお伝えする予定です。今年度の調査にご期待ください。

（滋賀県文化スポーツ部文化財保護課）



